

串間市教育研究所

I	研究主題	・・・・４—	1
II	主題設定の理由	・・・・４—	1
III	研究目標	・・・・４—	1
IV	研究仮説	・・・・４—	2
V	研究構想	・・・・４—	2
VI	研究内容	・・・・４—	3
1	キャリア発達を促す学級活動の指導についての基本的な考え方	・・・・４—	3
(1)	「キャリア発達を促す」ことについてのとらえ方	・・・・４—	3
(2)	なぜ学級活動の指導を通してなのか	・・・・４—	3
(3)	学級活動においてキャリア発達を促す手立て	・・・・４—	3
2	串間市の小・中・高等学校におけるキャリア教育の全体構想の作成	・・・・４—	4
3	高等学校につながる系統的な学級活動	・・・・４—	5
4	キャリア発達を促す学級活動の授業づくり	・・・・４—	6
5	キャリア発達を促す学級活動のモデル授業の実践	・・・・４—	6
(1)	児童生徒の基礎的・汎用的能力の実態	・・・・４—	6
(2)	検証授業Ⅰの実際（小学校第5学年）	・・・・４—	7
(3)	検証授業Ⅱの実際（中学校第3学年）	・・・・４—	8
VII	成果と課題	・・・・４—	10
1	成果	・・・・４—	10
2	課題	・・・・４—	10
○	引用・参考文献	・・・・４—	10
○	研究同人	・・・・４—	10

I 研究主題

夢や希望をもち、目標に向かって生きようとする児童生徒の育成

～キャリア発達を促す学級活動の指導を通して～

II 主題設定の理由

今日、社会のグローバル化等により、日本の様々な分野において構造的な変化が起こっている。特に産業や経済の分野においては変容が著しく、雇用形態の多様化・流動化が社会問題となっている。また、学生の立場から就業者の立場への移行がスムーズに行えない若者が増加していることも問題となっている。これらを受け、児童生徒の発達段階に応じながら小学校段階から組織的・系統的にキャリア発達を促していくキャリア教育の推進が強く求められている。

串間市においては、「徹底した学力向上」と「地域に貢献できる人材の育成」を目指して、平成20年度から小中高一貫教育をスタートさせた。その柱の一つであるキャリア教育についても組織的な推進を図ってきたが、「4領域8能力」から「基礎的・汎用的能力」への転換もあり、指導計画等や実践の改善を図るなどキャリア教育の更なる充実が求められている。

本研究に当たり、キャリア教育に関する児童生徒の実態把握を行った。その中で、串間市キャリア教育委員会が小中学生を対象として行った「キャリア教育に関するアンケート調査（平成22年度）」では、小学校高学年において「将来を考えて、自分がしなければならないことを計画的に進めることができる。」という項目について「いいえ」と回答した児童が半数以上いることが分かった。また、中学校では、「自分の進学や就職に必要な技術や学習、資格などの情報を進んで集めようとしていますか。」「自分の進路について目標を立て、その進路に向けて努力していますか。」という質問について、否定的な回答をした生徒が多いことも分かった。これらの実態から今までのキャリア教育の在り方に課題があると考えた。

また、キャリア教育は、学校の教育活動全体を通して行うものであるが、実践の場として中核となる特別活動、特に学級活動においては、自己の生き方や働く意義の理解などキャリア教育と密接に関わっている内容が多い。年間指導計画についても今回の学習指導要領の改訂を踏まえ、各学校で見直しが進められてきている。しかし、学級活動とキャリア教育の関連を図った取組については、学校により差が生じており、指導の一貫性、内容の系統性が十分であるとはいえない状況である。

そこで、本研究においてはキャリア発達を促す学級活動の指導を通して、自分の将来について夢や希望をもち、目標に向かって生きようとする児童生徒の育成を目指していく。その際、小学校段階からの系統的・計画的な指導の在り方について研究を深めていくこととする。これらの取組により、社会的・職業的自立及び自己実現が図られ、串間市の児童生徒のよりよいキャリア発達につながるのではないかと考え、本主題を設定した。

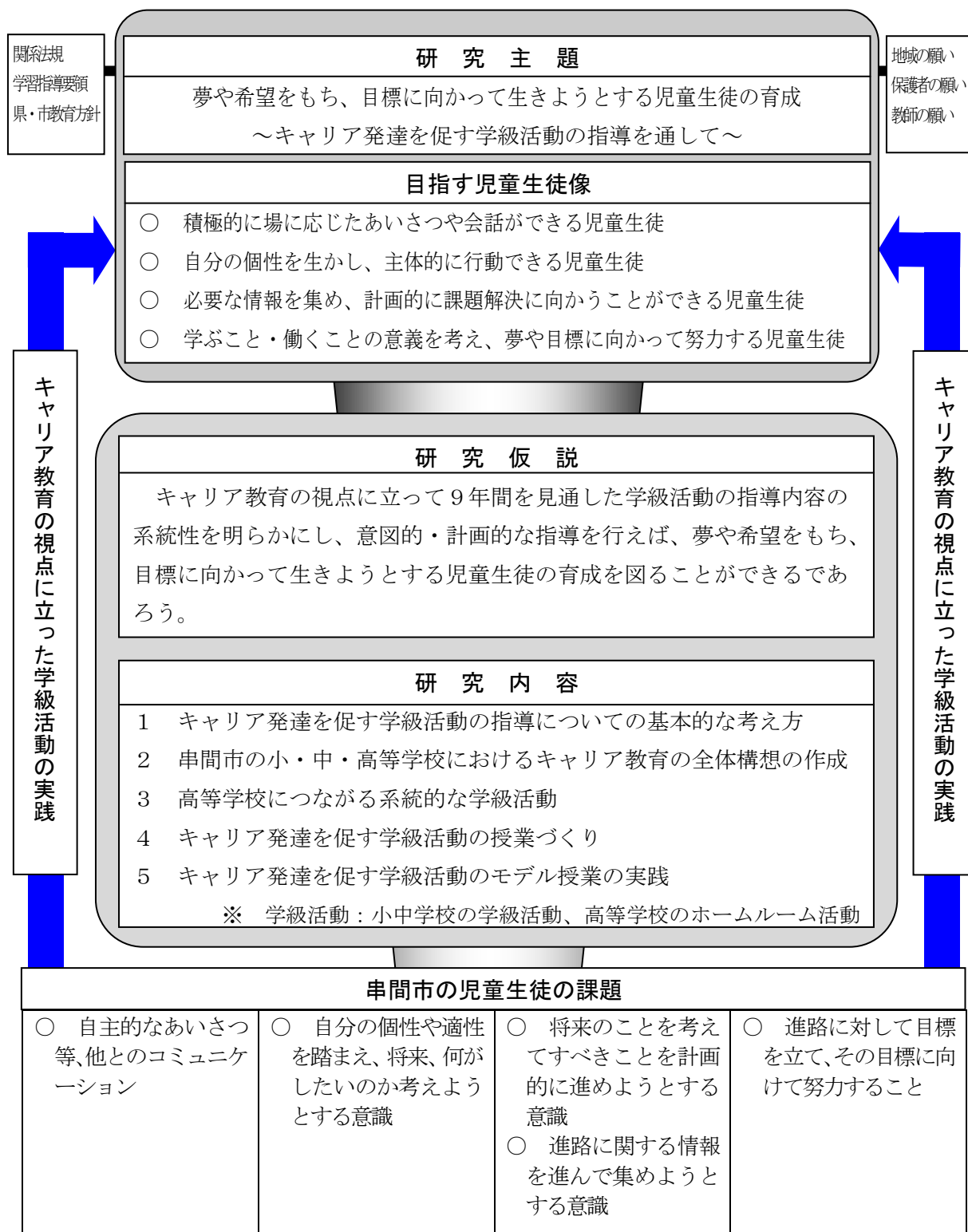
III 研究目標

- 夢や希望をもち、目標に向かって生きようとする児童生徒の育成を図るために、キャリア教育の視点に立った学級活動の指導の在り方を究明する。

IV 研究仮説

- キャリア教育の視点に立って9年間を見通した学級活動の指導内容の系統性を明らかにし、意図的・計画的な指導を行えば、夢や希望をもち、目標に向かって生きようとする児童生徒の育成を図ることができるであろう。

V 研究構想



VI 研究内容

1 キャリア発達を促す学級活動の指導についての基本的な考え方

(1) 「キャリア発達を促す」ことについてのとらえ方

本研究では、小・中・高等学校「キャリア教育の手引き」（平成23年 文部科学省）から、「キャリア発達」を次のように整理した。

児童生徒が集団生活の中でそれぞれの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしながら生き生きと活動することを通して、自分らしい生き方を実現していく過程

また、研究主題「夢や希望をもち、目標に向かって生きようとする児童生徒」を具現化するために、児童生徒が自己の生き方についての考えを深め、将来について考えるなどの機会を設けられるように「キャリア発達を促す」ことが必要であるとし、これを次のように定義した。

児童生徒の発達段階に応じて「キャリア発達」を支援すること

さらに、児童生徒一人一人のキャリア発達を促し、各々にふさわしいキャリアを形成していくために必要な基盤となる能力や態度を、次の四つの「基礎的・汎用的能力」とした。

人間関係形成・社会形成能力	自己理解・自己管理能力
課題対応能力	キャリアプランニング能力

(2) なぜ学級活動の指導を通してなのか

学習指導要領の改訂により、小学校の特別活動の目標に「自己の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う。」が加わった。中学校においても同様であり、これまで以上に特別活動におけるキャリア教育の推進が求められている。

キャリア教育は、集団活動を通じた教育活動の特質を生かし、集団の一員であるという存在感を高め、豊かな人間性や社会性の育成を図ろうとする特別活動との関連が深いものであるととらえることができる。そこで、本研究では、特別活動の基盤となる教育活動である学級活動の指導を通して取り組んでいくことにした。その中で、児童生徒が自己の生き方を見つめ、自主的・実践的な活動を積み重ねることが「基礎的・汎用的能力」の育成につながると考えた。

(3) 学級活動においてキャリア発達を促す手立て

児童生徒一人一人の成長は、学級活動の指導が単発であったり、校内や校種間における系統性等の希薄な指導であったりしては、児童生徒の意欲の高まりや能力・態度の育成に十分結びつくことができないであろう。

指導に当たっては、まず、目指す児童生徒像を明確にし、キャリア教育でどのような力を身に付けさせようとしているのかを具体的にすることが大切である。さらに、それらの目標を達成するために学級活動で指導すべき事項を分類・整理し、キャリア教育の全体計画及び年間指導計画にそれらを組み込み、横断的・計画的に指導できるようにする必要がある。

本研究では、各発達段階における発達課題を踏まえ、また、発達における個人差に留意しながら、系統的・計画的にキャリア発達を促すことができるよう串間市の小・中・高等学校におけるキャリア教育の全体構想や高等学校につながる学級活動の系統表を作成した。これらをもとに、授業を構築する手立ての在り方について串間市全体で共有することにより、キャリア教育の推進を図りたいと考えた。

2 串間市の小・中・高等学校における「キャリア教育の全体構想の例」の作成

キャリア教育は、学校の教育活動全体を通して実践されるものであり、体系的な指導により効果的なものとなる。次の全体構想は、串間市をモデルとして作成した例である。各学校においては、各学校の児童生徒や地域の実態から育成したい能力や態度を焦点化・重点化し、全体構想として具体的に整理することが望まれる。



3 高等学校につながる系統的な学級活動

小・中・高等学校12年間におけるキャリア発達の課題をもとにした学級活動の指導内容と能力や態度に関する系統表を作成した。各学校で学級活動の年間指導計画を見直す際、学級活動のねらいとキャリア教育の視点を有機的に関連付けること、また、指導内容の系統性を明確にし、指導の一貫性を図ることができるようにした。

【キャリア発達の課題をもとにした学級活動の指導内容、能力・態度の系統表（例）】一部抜粋

キャリア発達の段階	小学校			中学校		
	低学年	中学年	高学年	1年	2年	3年
キャリア発達の課題	道路の探索・選択にかかる基盤形成の時期			現実的探索と暫定的選択の時期		
学級活動の指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自己及び他者への積極的関心の形成・発達 ○ 身のまわりの仕事や環境への関心・意欲の向上 ○ 夢や希望、憧れる自己のイメージの獲得 ○ 勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成 			<ul style="list-style-type: none"> ○ 肯定的自己理解と自己有用感獲得 ○ 興味・関心等に基づく職業観・勤労観の形成 ○ 道路計画の立案と暫定的選択 ○ 生き方や道路に関する現実的探索 		
学級活動の指導内容	(1) 学級や学校の生活づくり ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決 イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理 ウ 学校における多様な集団生活の向上			(1) 学級や学校の生活づくり ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決 イ 学級内の組織づくりや仕事の分担処理 ウ 学校における多様な集団生活の向上		
	(2) 日常生活や学習への適応及び健康安全 ア 希望や目標をもって生きる態度の形成 イ 基本的な生活習慣の形成 ウ 望ましい人間関係の形成 エ 清掃などの当番活動等の役割と働くことの意義の理解 オ 学校図書館の利用 カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成 キ 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成			(2) 適応と成長及び健康安全 ア 思春期の不安や悩みとその解決 イ 自己及び他者の個性の理解と尊重 ウ 社会の一員としての自覚と責任 エ 男女相互の理解と協力 オ 望ましい人間関係の確立 カ ボランティア活動の意義の理解と参加 キ 心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成 ケ 性的な発達への対応 ク 食育の観点を踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成		
基礎的・汎用的能力	小学校			中学校		
	課題対応能力 情報の理解・選択・処理等 本質の理解 原因の追究 課題発見 計画立案 実行力 評価・改善	能力・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・当番活動を進んで行う。 ・自分のことは自分で行おうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・係や当番活動の仕事最後までやり通そうとする ・自分の力で課題を解決しようと努力する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の役割やその進め方、よりよい集団活動のたりの役割分担やその方法等を考える。 上級学校・学科等の種類や特徴及び職業に求められる資格や学習歴の概略をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい生活や学習や生き方等を目指して課題を見出し、解決のための計画を立てて実行する。 ・生き方や道路に関する情報を様々なメディアを調査・整理し活用する
	題材	<ul style="list-style-type: none"> (1年)当番をきめよう (2年)当番を工夫してやろう 	<ul style="list-style-type: none"> (3年)楽しい係活動にし。 (4年)係活動の工夫をし。 	<ul style="list-style-type: none"> 級級の組織と自分の役割職業について調べよう 	<ul style="list-style-type: none"> 不安や悩みの解決に向け職業と産業の関係 	

【系統表の作成手順】

① 児童生徒の実態把握と目指す児童生徒像の焦点化

申間市の児童生徒の実態から目指す児童生徒像を焦点化し、できるだけ具体的な姿を考えて育成したい能力や態度を設定する。

② キャリア発達の段階と課題の整理

小・中・高等学校におけるキャリア発達の段階と、各段階でのキャリア発達の課題を明確にする。

③ 学級活動の指導内容の系統性の明確化

小・中・高等学校におけるキャリア発達を促す学級活動の指導内容（「仕事の分担処理、希望や目標をもって生きる態度、勤労や生産、望ましい人間関係、学ぶこと働くことの意義」等）の系統性を明確にする。

④ キャリア発達を促すために学級活動で指導すべき事項の分類・整理

①で設定した能力・態度を身に付けさせるために学級活動で指導すべき事項を分類・整理し、自主的・実践的な活動の在り方を検討する。

⑤ 中核となる学級活動の題材の選定

各小・中・高等学校の年間指導計画等を参考に、基礎的・汎用的能力の育成を図る上で必要かつ連続性・発展性のある「題材」を洗い出す。

4 キャリア発達を促す学級活動の授業づくり

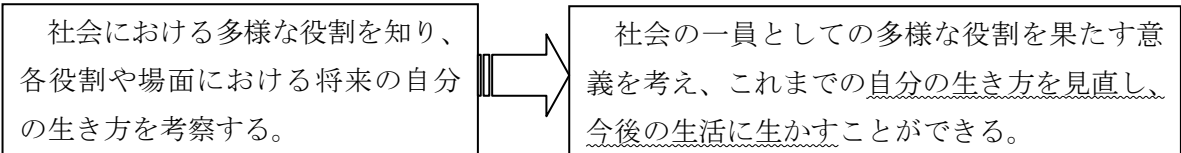
授業づくりにおいては、個々の児童生徒や学級全体のキャリア発達の課題を具体的にとらえた上で、授業の「ねらい」を明確にし、育成したい能力や態度を身に付けることができるように学習指導過程を工夫することが大切である。以下、授業づくりのポイントを示す。

○ 「ねらい」の明確化

- ① 「キャリア発達の課題をもとにした学級活動の指導内容、能力・態度の系統表」で該当学年における児童生徒の発達段階等と育成したい基礎的・汎用的能力を確認する。
- ② 本時の「ねらい」を、学級の実態と基礎的・汎用的能力から捉え直し設定する。

検証授業：中学校3年の例

【明確化した「ねらい」】



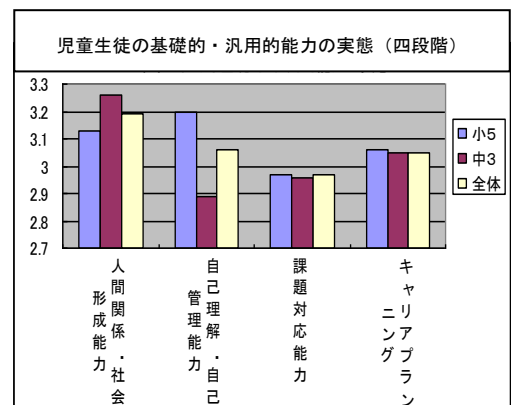
○ 学習指導過程の工夫

事前の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートや事前の議題提示、他教科と関連を図った活動などを意図的・計画的に取り入れ、児童生徒の意識を高めておく。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 導入において、実態と意識の差を認識させ、課題意識をもって学習に取り組ませる。 ・ 個人思考の過程を重視し、自己と向き合う時間を十分確保する。 ・ 集団思考の過程を重視し、互いの意見を聞かせ、多面的な解決方法を考えさせる。 ・ 発問や指示、説明を「ねらい」（育成したい能力からの観点）から見直し、工夫・精選を図る。 ・ 「これまでの自分」と「これからの自分」を見つめる時間を設定し、実践意欲を高める。
事後の指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実践の積み重ねを記録し、実践の意欲付けや今後の学習に生かすなど、継続的な実践につなげる。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童生徒の「気付き」「よい点や進歩の状況」を評価する。 ・ 児童生徒も自分の「気付き」「よい点や進歩の状況」を、自己評価や相互評価などによって評価する。（※教師と児童生徒が評価の視点を共有する。）

5 キャリア発達を促す学級活動のモデル授業の実践

(1) 児童生徒の基礎的・汎用的能力の実態

本市の児童生徒の実態を捉えるために、研究所員の所属する小中学校（対象小学校5年、中学校3年）において、キャリア教育のアンケートをとった。その結果、「課題対応能力」に課題があることが分かった。そこで本研究では、「課題対応能力」の育成を目指した授業実践を小学校と中学校で行うこととした。



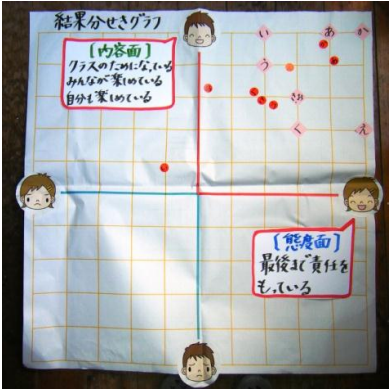
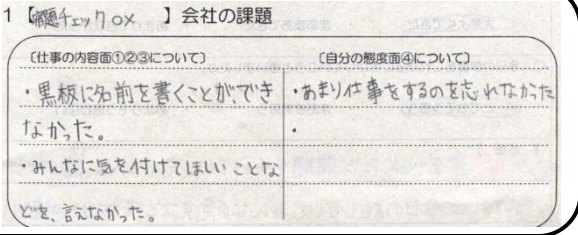
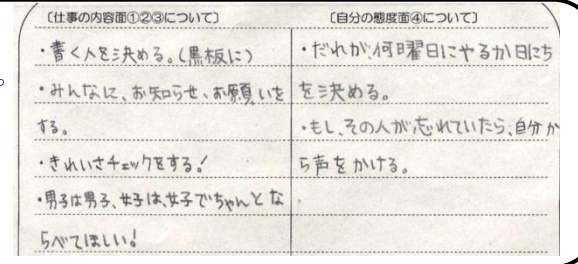
(2) 検証授業 I の実際 (小学校第 5 学年)

ア 題材 係活動を見直そう

イ 本時のねらい

- 係活動における課題に気付き、その改善に向けた計画を立てることができる。

ウ 学習指導過程

学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項 (○) 授業中の児童の反応(◆) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
<p>1 これまでの係活動を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 仕事の内容面 ○ 取り組む態度面 <p>2 本時のめあてをつかむ。</p> <p>会社のパワーアップ計画を立てよう。</p>	<p>○ 事前調査結果やいいところ発見カードをもとに、係活動の良い点に気付かせ、本時学習への意欲を高める。</p> <p>◎ 結果分析グラフを示し、自己評価との差に気付かせ、自分たちの課題として意識できるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◆ 差に気付き、その原因について意欲的に考えることができた。</p> </div> 
<p>3 各係の課題について出し合う。</p>	<p>○ 振り返りの視点をもたせ、係活動の役割の大切さや意義を再認識させる。</p> <p>◎ 事前調査結果をもとに各係の課題を明らかにさせる。</p> <p>☆ 自分の課題に気付いている。(観察)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◆ 振り返りの視点を十分活用できず、課題に気付くことについて個人差があった。</p> </div> 
<p>4 個人で改善方法を考える。</p>	<p>◎ 自分の考えを書くことができていない児童には、アドバイスカードを確認させる。</p> <p>○ 一人一人の考えのよさを認め、称賛する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◆ ワークシートに自分の考えを書くことができた。</p> </div> 
<p>5 各係で改善方法を話し合い、改善計画書にまとめる。</p>	<p>◎ 互いの考えを聞き合い、アドバイスカードを活用することで、視野を広げさせる。</p> <p>☆ 話し合い活動を通して自分の意見を出し、改善に向けた具体的な取組を明確にしている。(ワークシート・話し合い活動)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◆ 自分の考えを発言し合うことができた。</p> <p>◆ アドバイスカードからヒントを得て、さらに話し合い活動が活性化していた。</p> </div>
<p>6 各係で特に改善することについて発表する。</p>	<p>○ 話し合いの結果を改善計画書にまとめ発表させることで、具体的な取組を共有できるようにする。</p>
<p>7 学習を振り返り、感想を書く。</p>	<p>○ 本時における児童の活動の様子を称賛し、今後の取組へ活用を促す。</p>

エ 授業の考察

- 他者の客観的な評価や意見をもとに、自分たちの取組を振り返ったことにより、問題意識をもって課題を見つけたり、その改善に向けて計画を立てたりすることができた。
- ワークシートに自分の考えをまとめ、その後に話し合い活動を行ったことで、自分の意見と他の意見を比較しながら、改善に向けて主体的に考えることができた。
- 具体的な取組について改善計画書として視覚化したことは、今後の係活動について共通理解を図り、実践意欲を高めるために効果的であった。
- 事後の活動において、掲示された改善計画書を確認しながら係活動に取り組む姿が見られた。また、児童が三段階評価を毎日行ったことで、よりよい改善を目指したいという児童の意識の継続化が図られた。
- 課題の見つけ方に個人差が大きく見られた。これは、相互評価の結果や他者からの意見などの情報を選択・処理する能力の差が原因であると考えられる。児童の実態に合わせて、事前調査結果を教師が分かりやすくまとめたり、課題に気付かせるための発問や指示をさらに工夫したりすることが必要だと考える。

月	時	場	やること(内容)	担当者	ふり 返り	ふり 返り
月	休みの時間	教室	出版・ゆく		●	●
火			相談・アンケート		●	●
水			文章		●	●
木			色ぬり		●	●
金			全員判断		●	●

金：よくできた 銀：まあまあできた 銅：あまりできなかった

(3) 検証授業Ⅱの実際(中学校第3学年)

ア 題材 社会の一員として

イ 本時のねらい

- 社会の一員としての多様な役割を果たす意義を考え、これまでの自分の生き方を見直し、今後の生活に生かすことができる。

ウ 学習指導過程

学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) 授業中の生徒の反応(◆) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)									
1 A先生について考える。 2 本時の課題を知る。	○ 『収入のための仕事』以外の役割が果たされることで、社会が成り立っていることを知らせる。									
地域や社会の一員としての役割を果たす大切さを考え、今後の自分の生き方を考えよう。										
3 これまでの自分の役割への取組について振り返る。 ・学校での役割 ・家での役割 ・地域(社会)での役割	○ 三つの立場における自分の役割をワークシートの一覧表にまとめさせ、役割が達成できているか自己評価させる。 ◎ 一覧表をもとに役割への取組を見直させ、役割達成に対する課題を見つけさせる。 ◆ 三つの立場の役割を書くことで、役割の数が少ない立場があることに気付く生徒や、役割を果たせていない項目が多いことに気付く生徒がみられた。									
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>生徒A</th> <th>生徒B</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>役割(簡単な内容を書く) [評価]</td> <td>家庭: ベット小屋の掃除 [△]</td> <td>学校: 給食委員会 台さき係 [○]</td> </tr> <tr> <td>できていない理由・改善点</td> <td>時間がかって面倒と分かっているから</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			生徒A	生徒B	役割(簡単な内容を書く) [評価]	家庭: ベット小屋の掃除 [△]	学校: 給食委員会 台さき係 [○]	できていない理由・改善点	時間がかって面倒と分かっているから	
	生徒A	生徒B								
役割(簡単な内容を書く) [評価]	家庭: ベット小屋の掃除 [△]	学校: 給食委員会 台さき係 [○]								
できていない理由・改善点	時間がかって面倒と分かっているから									
4 ゲストティーチャークの講話を聞く。 ・はじめたきっかけ ・役割の意義や生きがい ・社会の一員としての心構えなど	◎ 実際に地域社会に貢献している方の講話を聞かせ、共感できるところや新たな発見などについてメモを取らせる。 講話を聞いて、分かったこと ◆ 与えられたことは嫌でもやる。嫌なことでも一生懸命すれば楽しくなる。 ◆ 役割をすることで、役割を工夫し、頼まれたこと以上のことをする生き方ができるようになる。									

<p>5 自分の役割に対する取組に対する課題をもち、今後の生き方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 改善が必要な役割と改善策 社会の一員としての生き方 	<p>☆ 講話を聞くことで、社会の一員である自分の立場を自覚し、自分の生き方に対する課題をもつことができる。(ワークシート・観察)</p> <p>◎ 一覧表や講話でとらえた課題をもとに、できていない理由を追求させ、改善の方法を考えさせる。</p> <p>☆ 役割をもつことや役割を見つけて実行することの大切さに気付き、それをもとに、自分の行動を改善する意欲をもつことができる。(ワークシート・観察)</p> <div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>◆ 生徒A、Bの変容</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;"></th> <th style="width: 35%;">生徒A</th> <th style="width: 50%;">生徒B</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>これまでの自分 (課題の意識)</td> <td>面倒くさいが仕方ないからする。 まだやらなくても困らない。</td> <td>給食台を拭くときにゴミを払っていた。 面倒だと思っていたので適当にしていた。</td> </tr> <tr> <td>これからの自分 (改善)</td> <td>・1週間に1回、決まった時間にする。 ・「自分がしないと人が困る」という意識をもつ。 ・言われる前にする。片付けのほうでなく、ベットの快適に過ごせるように工夫する。 ・将来の自分の役に立つと思って頑張る。</td> <td>・きちんとティッシュなどで拭き取ってからフキンで拭く。 ・すみずみまで丁寧にふく。 ・好きな人に頼まれたと思ってする。</td> </tr> <tr> <td>変容</td> <td>より具体的な改善策を書き込むことができた。</td> <td>役割の自己評価は○の評価だったが、講話を聞き、細密に気を配って考えていた。</td> </tr> </tbody> </table> </div>		生徒A	生徒B	これまでの自分 (課題の意識)	面倒くさいが仕方ないからする。 まだやらなくても困らない。	給食台を拭くときにゴミを払っていた。 面倒だと思っていたので適当にしていた。	これからの自分 (改善)	・1週間に1回、決まった時間にする。 ・「自分がしないと人が困る」という意識をもつ。 ・言われる前にする。片付けのほうでなく、ベットの快適に過ごせるように工夫する。 ・将来の自分の役に立つと思って頑張る。	・きちんとティッシュなどで拭き取ってからフキンで拭く。 ・すみずみまで丁寧にふく。 ・好きな人に頼まれたと思ってする。	変容	より具体的な改善策を書き込むことができた。	役割の自己評価は○の評価だったが、講話を聞き、細密に気を配って考えていた。
	生徒A	生徒B											
これまでの自分 (課題の意識)	面倒くさいが仕方ないからする。 まだやらなくても困らない。	給食台を拭くときにゴミを払っていた。 面倒だと思っていたので適当にしていた。											
これからの自分 (改善)	・1週間に1回、決まった時間にする。 ・「自分がしないと人が困る」という意識をもつ。 ・言われる前にする。片付けのほうでなく、ベットの快適に過ごせるように工夫する。 ・将来の自分の役に立つと思って頑張る。	・きちんとティッシュなどで拭き取ってからフキンで拭く。 ・すみずみまで丁寧にふく。 ・好きな人に頼まれたと思ってする。											
変容	より具体的な改善策を書き込むことができた。	役割の自己評価は○の評価だったが、講話を聞き、細密に気を配って考えていた。											
<p>6 教師の話を書く。</p>	<p>○ ゲストティーチャーから、生徒の取組の評価や、役割に対する生徒の考え方についての助言をして頂き、実践意欲を高めさせる。</p> <p>○ 自分の適性にあった役割を果たすことで、よりよい社会を築くことができることを伝える。</p>												

エ 授業の考察

- 社会人から見た「中学校時代における役割を果たすことの大切さ」について、ゲストティーチャーに講話をしていただいたことで、生徒が自分に与えられた役割に対する責任感をもつことの大切さに気付き、主体的に自分の役割の改善点を考える授業にすることができた。
- 自分の立場を家庭・学校・地域の三つに焦点化させたことで、地域にも目を向けた「社会の一員」として、自ら役割を見つけて実践しようとする「よりよい生き方」を考えさせることができた。
- 「役割への自己評価」の後に講話を設定したことで、生徒は、それまでの自分の取組が機械的で工夫がなかったことや、気持ちの持ち方によって楽しく役割に取り組めることについて改めて考えることができた。講話後の「役割についての課題をもつ」の場面がより深まった。
- 事後の変容として、自分の日々の目標に「委員会の仕事を工夫する」などの目標を立てて実践する生徒や、家庭での仕事を見直し、家族を喜ばせる行動をすることができるようになった生徒が見られた。

講師へのお礼の手紙より

- ・ 「家の手伝いをすると成績も上がる」という言葉が一番心に残りました。早速家に帰って、私の役割である風呂掃除とプラスαとして皿洗いをしてみました。帰ってきた両親は、風呂と皿を見て「どうしたと！」と驚いていました。今までは、頼まれても実際にすることはなかったけれど、お話を聞いて、変わろう！と思いました。「頼まれた以上のことをする」をモットーにします。
- ・ 「役割をもつことで、自分の生き方も変わってくる」という言葉が心に残っています。確かに役割をもつことは面倒くさいかもしれない。だけど、役割をもつことで自分が育っていく。だからこそ、自分の経験は無駄ではないことに気がつきました。

- 課題としては、生徒がもともともっている価値観の違いを調整したり、ゲストティーチャーの講話を教師が意図した内容にするために打ち合わせを綿密に行ったりすることが必要である。

Ⅶ 成果と課題

1 成果

- 小・中学校でキャリア教育に関する推進上の課題と児童生徒の実態を把握し、キャリア発達を支援する学級活動の指導の在り方について共同研究を行ったことにより、一貫した学級活動の指導の手順等を具体的に把握することができた。
- 小・中・高等学校における「キャリア教育の全体構想の例」や「キャリア発達の課題をもとにした学級活動の指導内容、能力・態度の系統表」を作成したことで、発達段階を踏まえた学級活動の授業の在り方が見えるようになった。
- キャリア発達を支援する学級活動の授業の実践は、個々の児童生徒の問題意識を高め、課題解決に向けて主体的に取り組む児童生徒を育成する手立てにつながった。

2 課題

- 串間市のキャリア教育部会と他の教科等部会との連携を図ったり、学校間で情報の共有を図ったりしながら、年間指導計画や1単位時間における授業の在り方についてキャリア教育の視点から見直し、工夫・改善する必要がある。
- 9年間を見通した学級活動をさらに充実させるために、児童生徒のキャリア発達が学級活動の指導によりどのように支援されたかについて把握する評価とその記録の生かし方について研究していくことが必要である。
- 児童生徒のキャリア発達を支援するために、学校の全教育活動における指導の在り方や学級活動と他の教育活動との有機的な関連を図った指導の在り方等に研究を広げていく必要がある。

【引用・参考文献】

- ・小学校学習指導要領解説 特別活動編 [平成20年8月 文部科学省]
- ・中学校学習指導要領解説 特別活動編 [平成20年9月 文部科学省]
- ・小学校 キャリア教育の手引き [平成23年5月 文部科学省]
- ・中学校 キャリア教育の手引き [平成23年5月 文部科学省]
- ・高等学校 キャリア教育の手引き [平成23年11月 文部科学省]
- ・宮崎県 中学生活と進路 1～3年 [県中学校教育研究会進路指導部会]

【研究同人】

所長	土肥 昭彦 (串間市教育長)	
事務局	川崎 伸幸 (学校政策課長)	野邊 幸治 (学校政策課長補佐)
指導員	重盛 文人 (指導主事)	
研究員	倉掛 高志 (市木中学校教頭)	権堀 亜郁 (福島小学校)
	高野 睦美 (有明小学校)	門田 直光 (大東小学校)
	坂本 結香 (福島中学校)	久保田美智代 (北方中学校)
	今城 真美 (都井中学校)	